

西暦	元号・年号	旅や登山と冒険に係る気になる勝手な話題
1803	享和 3	伊能忠敬が富士山の標高を測量で 3928mとした。
1832	天保 3	高山たつが 10 月 20 日(旧暦 9 月 25 日)に降雪の中、女性で初登頂した。
1857	安政 3	英国で The Alpine club(世界初のアルパインクラブ)創立された。
1860	万延元年 (庚申)	イギリス公使ラザフォード・オールコックが外国人で初めて富士山登頂し、標高 4322mとした。
1863	文久 3	スイス山岳会(SAC)及びイタリア山岳会(GAI)が創立された。
1865	元治 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ マッターホルン初登頂(エドワード・ウィンパー、チャールズ・ハドソン、フランシス・ダグラス卿、ダグラス・ハドウのイギリス人パーティとガイドの父子ミシェル・クロッツとタウクヴァルター)。しかし下山途中でハドウの滑落にハドソンとダグラス、クロッツが巻き込まれ、4 人は 1400m 下に落下して死亡した。</li> <li>◇ エベレスト(Everest)が命名された。イギリス統治・インド測量局は P15 の仮名の山が世界最高峰と判明した際に、前任の測量局長官 George Everest の功績として敬意を表し、名付けた。現在は、チベット語で「大地の母」を意味する「チョモランマ」(ChomoLangma)、ネパール語で「世界の頂上」を意味する「サガルマータ」(Sagarmatha)も用いられている。</li> </ul>
1866	慶応 2	坂本竜馬と妻のおりょうが新婚旅行途中、霧島高千穂の峰に登った。
1874	明治 7	ピッケルとナーゲルを用いた近代登山が日本で初めて六甲山で行われた(ウィリアム・ゴーランド、アトキンソン、アーネスト・サトウの 3 人のパーティ)。
1881	明治 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ イギリスの日本学者チェンバレンが編集した『日本についてのハンドブック』の中で、“Japanese Alps”が初めて登場した。この本で信州の山岳地帯の記述を担当したウィリアム・ゴーランドが「日本アルプス」の命名者とされている。</li> <li>◇ 内務省地理局測量班が測量登山で初めて 3000m 峰の赤石岳に登った。</li> </ul>
1895	明治 28	野中到が 2 月の厳冬期、富士山を初登頂した。
1917	大正 6	冠松次郎が早月尾根から劔岳に初登頂した。
1918	大正 7	村井米子が、女人禁制による村人の反対の中、立山に登った。
1921	大正 10	榎有恒が 9 月 10 日、アイガー・ミッテルレギ(東山)稜(3975m)をブラヴアンド、ストイリ、アマター、ガイドと初登頂した。
1923	大正 12	<p>ニューヨーク・タイムスに英国の登山家ジョージ・マロリーが「なぜ、あなたはエベレストを目指すのか」と問われて「そこに山があるから (Because it is there.)」と答えた記事が掲載される。</p> <p>*: 1924 年 6 月、エベレストで山頂を目指した彼(38 歳)とアンドリュウ・アーヴァン(22 歳)が行方を絶った。</p>

1935	昭和 10	スウェン・アンデルシュ・ヘディンが「さまよえる湖」ロプ・ノールの遷移説を実証した。計 5 回の中央アジア探険(第 1 次:1893~97 年、第 2 次:1899~1902 年、第 3 次:1906~08 年、第 4 次:1927~1933、第 5 次:1934~35)を行った。
1938	昭和 13	7 月 24 日アイガー北壁初登頂:アンデレル・ヘックマイヤー、ルートヴィヒ・フェルク(ドイツ人隊) ハイフリッヒ・ハラー、フリッツ・カスパレク(オーストリア人隊)と一緒に登頂した。
1948	昭和 23	北岳バットレス中央稜初登攀:松濤亮が 7 月に完登した。
1958	33 年	北岳バットレス中央稜積雪期初登攀:(奥山彰、吉尾弘、小坂橋徹のパーティーと芳野満彦、甘利利明のパーティーが同時にアタックし、話し合いにより 1 パーティーが登攀し初登頂に成功したという。)
1950	昭和 25	人類が初めて 8,000m 峰に初登頂した。アンナプルナ(8091m)をモーリス・エルゾグ、ルイ・ラシュナル率いるフランス隊によって初登頂された。
1964	昭和 39	深田久弥の「日本百名山」を新潮社が刊行した。(「山と高原」の連載にあった有明山が単行本で日光白根山に差し替えられた。)
1966	昭和 41	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 群馬県が「谷川岳遭難防止条例」を制定した(一ノ倉岳から南面の山域を登山危険地区と位置づけ、3 月 1 日から 11 月 30 日までの間に、入山する登山者に対し、登山届け、又は登山計画書の提出を義務づけた。「冬山の期間(12 月 1 日~2 月末までの間)」は、危険地区内の登山はしないよう努力規定とした。</li> <li>◇ 富山県は「富山県登山届出条例」を制定した。剣岳周辺を「危険地区」とした上で、12 月 1 日から翌年 5 月 15 日までの間に危険地区に立ち入る者に対し「登山届」の提出を義務づけた。</li> </ul>
1970	昭和 45	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 5 月 5 月 11 日に日本山岳会エベレスト登山隊(隊長:松方三郎、登攀隊長:大塚博美)の松浦輝夫と植村直己、12 日に平林克敏とシェルパのチヨレーターが登頂した。同隊の小西正継等が南壁初登攀に挑戦したが 8500m 地点で断念した。</li> <li>◇ 植村直己が 8 月にマッキンリーを単独登頂した。</li> </ul>
1971	昭和 46	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 立山黒部アルペンルート立山駅から扇沢駅まで全線開通した。</li> <li>◇ 環境庁(現:環境省)が発足した。</li> </ul> <p>(付録:相澤がヒマラヤ、カンミール等で初めて遊んだ。)</p>
1972	昭和 47	植村直己がグリーンランドで往復 3000 km の犬ぞり単独旅行に成功した。
1974	昭和 49	植村直己が北極圏のグリーンランドからカナダ、アラスカの 1 万 2000 km を単独犬ぞり走破に成功した。
1978	昭和 53	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 長谷川恒男がアイガー北壁ノーマル・ルートを冬季単独初登頂した。</li> <li>◇ 植村直己がカナダ・コロンビア岬から北極点を經由してグリーンランドを横断する北極点単独犬ぞり旅行に成功した。</li> </ul>

		◇ ラインホルト・メスナーがエベレストでハーベラーとのコンビで人類初の無酸素登頂に成功した。
1979	昭和 54	長谷川恒男がグランド・ジョラス北壁オオーカー稜を冬季単独初登頂し、世界で初めて、アルプス三大北壁冬季単独登頂を達成した。
1980	昭和 55	ラインホルト・メスナーがエベレスト単独無酸素登頂に成功した。
1984	昭和 59	植村直己がマッキンリーの冬季単独初登頂に成功した旨の無線交信をした後、行方不明となった。
1988	昭和 63	山野井泰史がトール西壁を単独登攀に成功した。
1991	平成 3	◇ ブロード・ピーク(8,051m)に無酸素登頂に成功した(小西浩文、山野井泰史、長尾妙子ら)。 ◇ 長谷川恒男(享年 43 歳)が 10 月 10 日ウルタル II 峰で雪崩に巻き込まれ星野清隆と共に遭難した。
1993	平成 5	ガッシャーブルム II 峰(8,035m)に無酸素登頂に成功した(小西浩文、山野井泰史、長尾妙子、戸高雅史)
1994	平成 6	◇ 山野井泰史がヒマラヤ、チョー・オユー(8201 m)の難ルートは無酸素単独で初登攀に成功した。 ◇ 杉本智彦が可視マップ作成ソフト「カシミール」を発表した(現在の KASHMIR 3D)。
1996	平成 8	植村直己冒険賞を豊岡市が主催した。第 1 回受賞者は尾崎隆氏(「幻の山ミャンマー最高峰カカボラジ(5881m)初登頂」)であった。
1998	平成 10	植村直己冒険賞・第 3 回受賞者は関野吉晴氏(「人類の旅 5 万キロをたどるグレートジャーニーの冒険」)であった。
2002	平成 14	山野井泰史がヒマラヤのギャチュンカン(7952m)北壁の単独登頂に成功したが、帰路に雪崩に遭い壮絶な生還劇の末に脱出した。そして、両手及び右足の指を計 10 本切り落とした。 植村直己冒険賞・第 7 回受賞者は山野井泰史・妙子氏(「ギャチュンカン峰(7952m)の登頂に成功」)であった。
2007	平成 19	ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに高尾山と富士山が三ツ星の山として掲載された。
2011	平成 23	5 月 13 日に尾崎隆(58 歳)がエベレスト登頂途中高山病になり下山途中で死亡した。(尾崎隆氏は 1980 年世界初のエベレスト北壁からの登攀に成功し、また、植村直己冒険賞の第 1 回受賞者である。) (付録:2 月に相澤がエクアドルのイルニサ、コトパクス、チンボラゾ等で遊んだ。)